

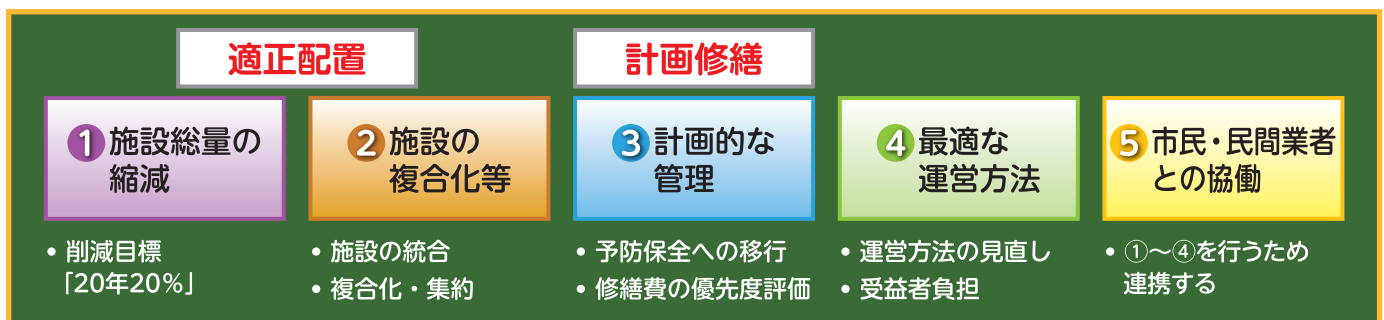
一緒に考えよう！未来の公共施設⑥

【公共施設マネジメント推進状況】

公共施設の老朽化が進み、改修・更新に係る経費が増加しています。当市では、市民サービスの低下を招かないよう、将来の公共施設の在り方を見据えた取組みを進めています。公共施設マネジメントだより第6号ではその進捗具合をお知らせします。「必要な市民サービスと公共施設を維持していくにはどうすればよいか？」一緒に考えていきましょう。

公共施設管理の5原則 ～公共施設マネジメントの方程式～

取組みの例について、次の5原則に沿って見ていきましょう



※第3号、第5号でお知らせした「公共施設マネジメント方程式」や「原則」を発展的に見直しています。

適正配置

・下館中学校と下館北中学校の統合

生徒数の減少に伴い、令和5年4月に下館北中学校と下館中学校は統合します。統合により、通学に新たな負担が生じる生徒を対象に登下校時の通学支援としてスクールバスを運行します。

・認定こども園の整備と明野幼稚園の閉園

老朽化した認定こども園せきじょう(旧関城幼稚園と旧関城保育園)を縮小し、明野幼稚園を閉園し（令和6年3月末）、市立の教育・保育施設を再整備します。

② 施設の複合化等

・明野五葉学園の整備

明野中学校敷地内に明野中学校と大村・村田・鳥羽・上野・長讃の5つの小学校を統合し、本市初となる義務教育学校「明野五葉学園」の整備を進めています。（令和6年4月開校）

・子育て支援施設の整備

明野五葉学園の敷地内に放課後児童クラブを整備します。（令和6年4月オープン）

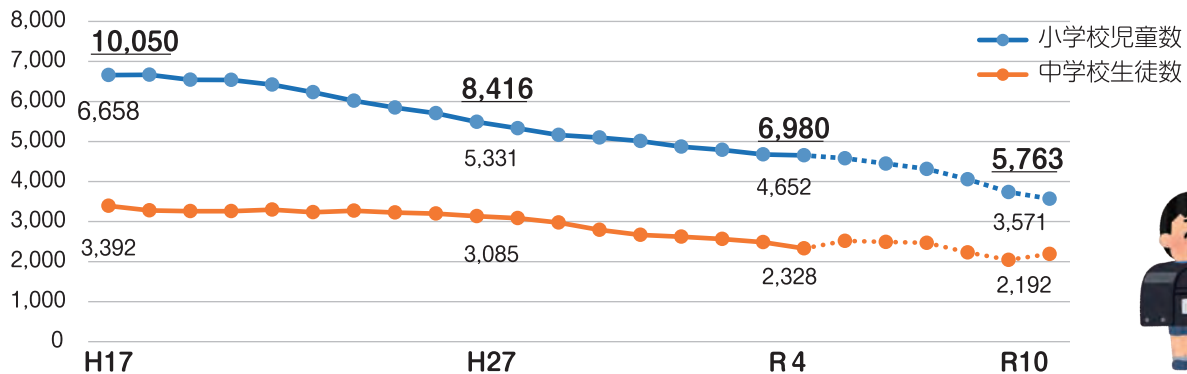


空撮写真（R5.1月末時点）

課題：進みゆく児童生徒数の減少傾向

コロナ禍も影響し、少子化が一層進んでいます。本市の児童生徒数は、市が誕生した平成17年度と比較し、令和4年度には約3割、令和10年度にはさらに減少する見込みです。

【児童生徒数の推移】



《今後の取組み》

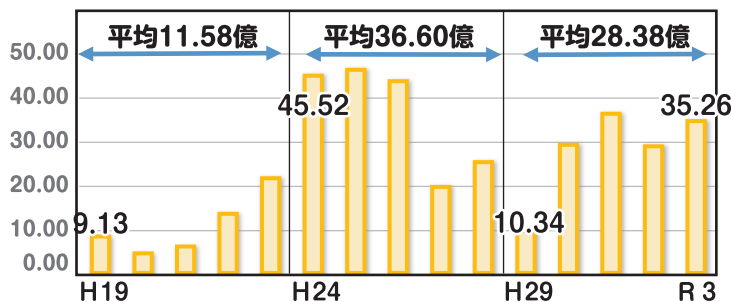
将来の小中学校の在り方を考えると、公共施設マネジメントだけでは解決できない“**学習能力**”や“**生きる力を育む**”といった課題(テーマ)への認識と理解がたいへん重要です。そこで、教育委員会では、学校の在り方検討委員会に諮問、協議、答申を経て、子どもたちの将来を第一に、ステップを踏んで、学区ごとに協議会、準備委員会を立ち上げ、みなさまに考えていただく場を提供していきます。



計画修繕

③ 計画的な管理

【公共施設の投資的経費(修繕対策費用)の増加】



公共施設の修繕は、限られた予算のなか、**利用者の安全を最優先**していくことが必要
⇒本市では、**修繕のトリアージ(優先度評価)**をすることで、効率的・効果的な修繕を進めています。

④ 最適な運営方法

【令和5年4月～】

- ・スポーツ施設の指定管理者が「**特定非営利活動法人 日本スポーツ振興協会**」へ変更
⇒新たな発想とノウハウで自主事業などの展開に期待します。
- ・**下館総合体育館の冷房・暖房の利用料金**
⇒利用団体の皆様に、負担いただくことになりました。

⑤ 市民・民間業者との協働

【初のネーミングライツの導入】

導入施設：下館総合体育館
愛称：**ザ・ヒロサワ・シティ体育館**
(令和5年4月1日～)

将来も必要な公共サービスが受けられるように、
公共施設のあり方を一緒に考えていきましょう！

